

山本鼎の部屋のデジタル化

【山本鼎の部屋の課題】

- ・ ガラス張りや額縁に入っているため資料の一部分しか見ることができない
- ・ 劣化が進んでしまう
- ・ 細かくて見づらい、読みづらい部分がある
- ・ 利用する機会がない

【目的】

現代の社会ではデジタル化が進んでおり、その対応が必要になっている。そのため現在の山本鼎の部屋の現状は時代遅れとも言える。また、学校側の視点から考えれば、山本鼎の部屋があるため来訪者への対応が必要になり、負担が大きいと考える。また、私は神川小学校出身であるが、この部屋を利用した記憶がない。せっかく資料があるのに小学生すら利用しないのはもったいない。そこでデジタル化を行うことで子供達がタブレット端末を使って山本鼎について学習できたら良いのではないかと考えた。細部までじっくり見ることができるし全ページ見ることができるので子供達も理解を深めやすいのではないかと考えている。学習の材料として資料の提供ができればと考えている。展示する必要をなくすことで資料の劣化防止にもなる。

【効果】

①児童の学習に役立てることができる

児童がタブレット端末で学習できるようになる。自主的に調べたり他の資料を見たりすることで新たな発見につながり理解を深めることができる。

②管理の負担が少なくなる

来訪者への対応をする必要がなくなる。

③資料が活用される幅が広がる

地域の方や興味を持った方が資料にアクセスできるようになる。

【方法】

- ・ スキャンスナップで読み込む
- ・ 読み込めない資料は一眼レフで写真を撮る

【デジタル化のイメージ】

デジタル化する前



山本鼎の部屋に展示されている絵



デジタル化した後



上田市マルチメディア情報センターHP <https://museum.umic.jp/kangawa/>より引用

【参考例】

上田市マルチメディア情報センター山本鼎アーカイブズ

山本鼎
美術の大家化、民衆芸術運動のなかに身を投じた鼎の生涯を辿る。

トップページ 山本鼎の生涯 農民美術 作品コレクション

作品コレクション

版画 | 水彩・水彩 | 油彩 | スケッチ | その他

版画

 <p>漁夫 山本鼎 1904(明治37年) 木版・紙 22.1x17.3(cm) 日本近代版画の出現となった記念すべき作品。「朝曇」に掲載され注目される。石井祐平によって刀刻と命名される。版木が石井家に残されていて上田市に寄贈となる。本作は1988年の移譲。</p>	 <p>モスクワ 山本鼎 1916(大正5年) 木版・紙 34.7x42.6(cm)</p>
 <p>デッキの一隅 山本鼎 1912(明治45(大正元)年) 木版・紙</p>	 <p>ブルトヌ 山本鼎 1920(大正9年) 木版・紙</p>

上田市マルチメディア情報センターHP <https://museum.umic.jp/yamamotokanae/works/> より引用